

2019（新元号元年度）菊川市立河城小学校学校経営構想

校長 伊村洋之

1 河城小学校の沿革

河城小学校百年誌（昭和 63 年 9 月発行）には、「1886 年（明治 19 年）9 月 27 日に公立正心尋常小学校の開校をもって、河城小学校の開校とする。」と記載されている。つまり、今年（2019 年）で 133 年目を迎える歴史と伝統のある学校である。

1947 年（昭和 22 年）には、河城国民学校を河城村立河城小学校と改称し、その後、1955 年（昭和 30 年）に菊川町と河城村の合併により、菊川町立河城小学校、2005 年（平成 17 年）菊川町と小笠町の合併により、現在の校名となる。

平成時代の終わりを迎えるが、1989 年（平成元年度）には、全校児童 495 人であった児童数が、2018 年（平成 30 年度）270 人と 30 年間で 225 人減少している。

2 実態

(1) 学区

本校の学区は、広範囲に渡っている。地区として、北方は、上倉沢、東富田、西富田、西方は潮海寺、上本所、虹の丘、富士見台、北東方は、下倉沢、東南方は、沢水加、学校周辺は、和田、吉沢、友田という地区に分かれている。歴史的には、それぞれが「村」として独立していたという経緯から、現在でも地区内のつながりは強い。

地域の方は、学校に対して協力的であり、子どもたちをたいへん大事にしようとしてくれている。反面、保守的な面が見られ、変革に対しては、消極的である。また、虹の丘と富士見台は、新興住宅地であり、近年、小学生の減少は著しい。

(2) 保護者

平成 30 年度 1 月現在、PTA 会員数は、196 である。概して、学校の教育活動に協力的であり、あいさつもよくできるといってよい。学校評価アンケートでは、子どもにつけたい力として「思いやり」と「主体性」が多くあげられた。

(3) 児童

全体的な長所として、「素直さ」があげられる。これは、牧歌的な地域の特徴からくるものと考えられる。すなわち、幼児期から、大勢の大人に見守られ、大切に育てられていると言えるだろう。

国の学力調査の結果は、「平均的」である。静岡県全体的にその傾向はうかがえるが、可もなく不可もなく、他者と同じようにして成長していく過程を重んじてきた結果だといえる。言い方を替えれば、競争力に弱いとも言える。

3 経営の基本理念

(1) 学校教育の目的

集団生活を営む中で、それぞれの子どもがもつ良さ（可能性）を引き出し、生かし、伸ばしていく過程を通して、よりよい人格形成を促すことが学校教育の目的である。

(2) 小学校期とは

小学校は、どの子ども自分の人生を歩んでいくための「生き方の種をまくところ」である。

○生き方の種をまくとは

- ・ 基本的な生活習慣を身につけたり規範意識を高めたりする。
- ・ 他者とのよりよい関わり方を身につけていく。
- ・ 他者のために自分の力を使う心地よさを体感させる。
- ・ 読む、書く、話す、聞く、考えるといった「学習の基礎基本」が定着する。

(3) 教師集団の在り方

教師集団の結束力（組織として機能する力＝組織マネジメント力）が、教育効果を高める。

○マネジメント力とは

- ・ 目標（ゴール）を明確にし、それを達成するための手立てを考え、実践し、評価するという一連の流れを構想し、実行する力である。それを、組織的に行っていくことが組織マネジメントである。
- ・ 我々を取り巻く資源・素材（人・物・こと）の活用を検討し、教材化することで成果を導いていく。

(4) 時代の要請

2020年度（新元号2年度）完全実施の指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」を授業改革の柱に掲げ、カリキュラム・マネジメントを主にした手だてをとることによって、生きる力を培っていくことを目標に据えている。

さらに、「地域に開かれた教育課程」を前面に打ち出した。閉鎖的な学校社会ではなく、教育課程そのものを地域と共有していくことが求められている。

近い将来を予想すると、AI（人工知能）の発達に伴って、今まで「人」が担ってきた仕事が、AIにとって変わられていくことは必然であろう。また、少子高齢化が進むことから、地域に根ざした人材の育成も急務である。

このような変化の激しい時代にあって、将来的によりよく生きる人間を育成するためには、「主体的に考え、行動する力」が重要となる。AIにはない、臨機応変に考え、実行する力である。

4 基本理念に基づく方針（5つの教育課題）

(1) 地域に開かれた教育課程をめざすチーム KAWASHIRO の構築

- ・ 地域を知ることによって得られる「人・物・こと」の積極的活用

(2) すべての教育活動を重点目標達成へつなげる構想化

- ・ 合言葉は「つなぐ・つなげる・つながる」

(3) 広義の特別支援教育を基盤とした一人一人に寄り添う心の教育

- ・ 教育環境のUD化（誰もが学びやすい空間の構築）

(4) 「学びの3要素：話す・聞く・考える」ことを重要視する学びの場

- ・ 基礎基本の確実な定着（学校全体で行う主体的学び意識の向上）

(5) よりよい職場環境づくりと教師としての使命感の育成

- ・ 職員が気持ちよく働くことは、子どもへ直接影響する。

5 教育課題への具体的対応・方策

(1) 地域に開かれた教育課程をめざすチームKAWASHIROの構築

- ・地域を知ることによって得られる「人・物・こと」の積極的活用

学校教育目標『かがやく子』

「かがやく子」とは、児童一人ひとりが、自分なりの目標をもち、その達成に向かって努力する姿である。この姿をめざして取り組む教育活動の過程を地域に向かって、常に発信し、地域との目標の共有を図る。今や、学校は地域の中核である。そこへ直接的に係わる児童や保護者だけでなく、地域に住まう老若男女みんなが、いきいきと生きるために、地域の宝である子どもを中心に活性化を図っていく。地域で目標の共有を図ることこそ、開かれた教育課程の第一歩としてとらえる。

この考えのもと、地域を知る、協働する活動を意図的に導入する。昨年度実施したものをさらに進化させるという視点をもつ。

(2) すべての教育活動を重点目標達成へつなげる構想化

- ・合言葉は「つなぐ・つなげる・つながる」

ア 重点目標

重点目標「自分からかがやく」

この目標は、「主体性の育成」を強く意図している。自分から学習する、自分からあいさつする、自分から考え行動するなど教育活動の全てにおいて「自分から」取り組む場面は存在する。それを教師が意識し、良い表れを価値づけることで主体性が育っていく。

イ ステージ制の導入（「輝」の復活）

- ・1年間を5ステージ（5輝）に分け、それぞれに短期目標を設定する。
- ・儀式的行事を年度初めの始業式、年度終わりの修了式、入学式、卒業式とし、他は、「夏休みを迎える会」のように子ども主体で行う。

ウ 学年活動構想

- ・学校行事、学年行事を核にした「つながり」を示す構想図を立案する。

エ 評価

- ・そのつど評価（評価と指導の一体化）、形成的評価、総括的評価を構想の中に位置づける。
- ・記録をとること、蓄積することを重視する。

(3) 広義の特別支援教育を基盤とした一人一人に寄り添う心の教育

- ・誰もが学びやすい場を創る&生活の基礎基本を確実に育む

ア 一人一人に寄り添い、心を育てる

- ・子どもの変容を見取ることができる教師
- ・やる気を引き出し、子どもが活躍する授業
- ・価値づけることを通して養う道徳的実践力
- ・役割を明確にし、自治の力を育てる特別活動

イ 教育環境のUD化

- ・人的・物的・言語的環境の整備と合理的配慮

ウ 大切にしたい「あ・い・う・え・お」

- ・「あ」・・・あいさつ、ありがとう
- ・「い」・・・いのち
- ・「う」・・・うたごえ
- ・「え」・・・えがお
- ・「お」・・・思いやり

エ 家庭を支えるシステム

- ・不登校や問題行動の背景には、必ず家庭があるという認識をもつ。
- ・ケース会議を開き、チームで対応する
- ・SC SSW との連絡を密にする。市機関との連携を強化する。
- ・病院、児童相談所等他機関とのつながりを明確化する。

(4) 「学びの3要素：話す・聞く・考える」ことを重要視する学びの場

- ・基礎基本の確実な定着（学校全体で行う主体的学び意識の向上）
- ア 教材研究の時間確保
- ・毎週位置づける。
- イ 校内研修の活性化
- ・テーマは「子どもが主体的に学ぶ授業づくり」
- ウ 全校での取組
- ・話す・聞く・考える機会の意図的な設定を試みる。
 - ・家庭学習のあり方を絶えず検討する。
 - ・漢字検定の実施など目標を持たせやすい実践を工夫する。
 - ・英語の日を設定する。

(5) よりよい職場環境づくりと教師としての使命感の育成

- ・職員が気持ちよく働くことは、子どもへ直接影響する。
- ア 気持ちよく働くために（プラス思考の職員集団）
- ・それぞれの役割の明確化（校内分掌）
 - ・補い合うのりしろ部分
 - ・失敗を恐れない思い切った実践
 - ・一人だけの対応ではなく、チームで対応
 - ・育成の視点をもったベテランの実践
 - ・気配り、目配り、心配りを大切にされた日常
 - ・社会人としてのマナーを学ぶ場
 - ・合言葉は、「凡事徹底」（報告・連絡・相談・確認の徹底）
- イ 働き方改革
- ・最終退庁時刻は、19時30分とする。（最終退庁者は、氏名と時刻記入）
 - ・会議時間は、1時間以内とする。（全ての会議）
 - ・休日と勤務日のメリハリをつける。

6 最後に

花と緑に囲まれ、誰が見ても気持ちよく感じる環境は、人の心に安らぎをもたらします。